

みぬまハウス 通信

第26号 2016年4月5日発行
さいたま市見沼区大和田 2-1288-4
NPO法人 みぬまで暮らす会
TEL/FAX 048-796-0295
<http://www.minuma-hausu.net/>

☆ まちの保健室から セミナーのお知らせ ☆

第10回 セミナー「延命治療について知っておきたいこと」

日 時: 4月20日(水) 午後1時30分～3時

会 場: みぬまハウス

定 員: 20名

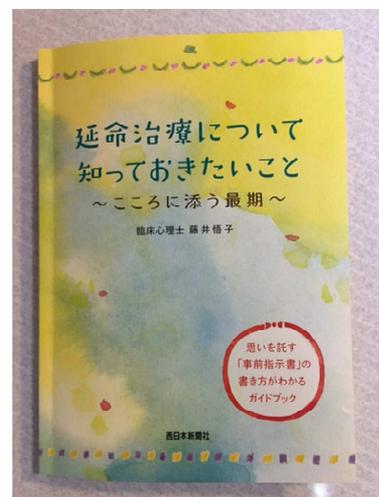
ゲスト: 「たんぽぽ訪問看護ステーション」代表・佐藤紀代子さん

参加費: 1,000円(資料代)

「延命治療とは、病状や衰弱が進み治療の回復の見込みがなく、そのままでは死を迎える段階(終末期)で、いろいろな技術により生命の維持をはかる医療のこと。」(本書 第1部 からの引用)

今回の資料は、ご自分のお母様の延命治療を断った体験から最期の医療について、できるだけ本人の心に添い、家族の迷いや悔いが少ないものとなるように書かれたガイドブック。「事前指示書」のヒナ型付きで、選択方式で答えられるので記入しやすい。治療法や医療関係の言葉については、臨床経験豊富な佐藤さんの説明を受け、各自、実際に書き込んでみます。

資料: 『延命治療について知っておきたいこと』 →
(臨床心理士 藤井悟子著 西日本新聞社刊)



<まちの保健室>とは

身近に病気の進行や薬、介護、健康について気軽に相談できるのが「まちの保健室」です。昨年6月から始まりました。当初から講師を引き受けてくださった「たんぽぽ訪問看護ステーション」代表・佐藤紀代子さんが今年度も引き続き講師を担当していただきます。

本年1月から「終末期の医療」と言われる胃瘻や経管栄養、人口呼吸器について学んできました。最期まで安心して暮らすためには正しい高齢期医療の知識が必要と感じていたからです。

私ごとですが、3月4日に最愛の母を看取りました。安心して看取ることができたのは事前に「まちの保健室」で胃瘻や経管栄養についての考え方を学べたからです。(長沼 和子)

コラム:みぬまハウスもオープンから7年目を迎え、在宅で安心して暮らす仕組みが少しずつ、目に見えるかたちになってきました。昨年の「生活支援サポーター懇親会」からサポーターを申し出る会員さんも増え、生活支援も広がってきました。介護申請が必要になった会員さんには「あいりす介護支援センター」のケアマネ・五十嵐裕子さんが飛んできてくれます。ヘルパーやサポーターのコーディネートは進藤典子(当会理事)が、必要なサービス提供についての打合せ等は伊多波安子(当会理事)が担当しています。

☆ 定時総会のお知らせ ☆

- 日 時:平成28年5月14日(土)午後1時~3時
会 場:大砂土東公民館1階 レクホール
議 事:① 平成27年度事業報告および収支報告
② 平成28年度事業活動計画および収支予算
③ 理事改選
④ その他

みぬまハウスは7年目を迎えます。活動計画へのご意見ご提案をお待ちしています。

☆ アンケートへの協力をお願い ☆

「市民医療ネットワークさいたま」の「信頼できるお医者さんをさがすためのアンケート」への協力をお願いします。“元気なときこそ医者探し”という考えの基で、市民が医療に関する情報と知識を共有するために、あなたのアンケートが役立ちます。ぜひご協力ください。なお、アンケートは下記実施機関に直接お送りください。問い合わせも同所をお願いします。

アンケートの実施機関 : 市民の医療ネットワークさいたま

アンケートの送先住所 : さいたま市浦和区針ヶ谷4-7-33-1-206

T e l 090-1823-7040

☆ 和やかな介護者カフェ ☆



介護者カフェは、ご利用された方々からたくさんのご支持をいただいています。かつて介護を担っていた方と一緒に食事をしたり、コーヒーや紅茶を飲みながらのおしゃべりに心を和ませ、介護に対する不安や疑問の軽減とホッと一息の場所を提供しています。どなたでもご利用いただけます。介護でお悩みの方がいらっしゃいましたらぜひ声をかけてあげてください。

毎週日曜日と金曜日の午前11時から午後4時までみぬまハウスにて営業しています。」

介護保険外の生活支援サービスのご案内

みぬまハウスは、介護保険でまかなえない生活のあれこれを会員同士で支え合っています。

利用した人は1時間700円を支払います。(超過30分ごとに300円)

いつでもサポーター募集中です。あなたも支え合いの仲間になりませんか。

サポーターとして協力していただける方は「みぬまハウス」

☎ 048-796-0295 へお問い合わせください。